

## 文京遺跡における縄文時代晩期～弥生時代前期の農耕空間

三吉 秀 充

松山平野の北部、石手川が形成した扇状地上に立地する文京遺跡は縄文時代前期以降、黄褐色土の堆積が進み（平井 1989、宮本 1990）、後期～晩期段階には小規模な微高地や平坦地と微凹地から構成される複雑な旧地形が形成される（宇田津・外山・田崎 2010）。外山氏は旧地形を踏まえた生活空間を議論する基礎的作業を進め、縄文時代後期の遺構と遺物が旧河道や谷状地形に近い微高地や平坦地に集中することから居住空間とし、イネのプラント・オパール<sup>①</sup>の検出状況から住居周辺の平坦地や谷状地形を利用した小規模な生産域であったと推定した（外山 2013）。その後、文京遺跡における調査事例も増え、より詳細な農耕空間の実態が明らかになっている。ここでは平野内の最新の事例を踏まえて整理を行いたい。

### 1 微高地の調査

縄文時代後期から晩期に位置づけられる縄文土器や石器、焼土塊や炭化物集中地点が6地点前後確認できる。明確な遺構を確認できたのは文京遺跡 35 次調査や 45 次調査などに限られる。45 次調査では竪穴建物跡の上部が削平され、円形に巡る小穴（柱穴か）を検出している。微高地上の遺構はその後の土地利用による改変で、不明な点が多い。

### 2 微高地縁辺部の調査

微高地から谷部への落ち際や谷部では、洪水砂によって埋没した古土壌が良好な形で残されている。

44 次調査では縄文時代後期～晩期の小溝群とともに多量のプラント・オパール<sup>②</sup>が確認され、周辺での栽培や周辺からの二次堆積の可能性が考えられている（田崎・外山・宇田津・松田・三吉 2013）。

45 次調査や 75 次調査地点では、平行にのびる小溝群が確認されており、畝跡に伴う畝間跡と推定される（三吉 2024）。

60 次調査では 1 区北半部と 2 区の限られた範囲の古土壌下面で多様な凹みが多数確認されている。長辺 7.5～12 cm、短軸 5～10 cm 前後、深さ 4.5 cm～8 cm を測り、平面形は隅丸の三角形や菱形で、長軸方向の断面が幅広の U 字形、短軸方向の断面が「レ」字形や V 字形を呈する凹み<sup>③</sup>が基本となり、この凹みが重なり合うことによって大小の凹みを形成していることが明らかになっている。これらは土壌の耕起を目的としたものと推定される（愛媛大学埋蔵文化財調査室 2017）。60 次と 75 次調査地とは隣接しており、栽培された植物や栽培方法の違いによるものなのか、畝跡の耕作段階の違いなどによって畝跡の様相が異なっていると推定される。

この他に平野南部では上三谷篠田・鶴吉遺跡において、弥生時代前期以前の溝で区画された畝跡を確認できる（愛媛県埋蔵文化財センター 2018）。

### 3 谷部の調査

75 次調査の谷部では、自然流路が確認されており、その上部層は、縄文時代晩期末に古土壌として地表面であったことが確認されている（愛媛大学埋蔵文化財調査室 2024）。中世以前の段階に、洪水砂によって埋没した後、古土壌や洪水砂を攪拌し、農耕空間として利用した可能性も想定される。この他に道後城北遺跡群では愛媛大学御幸団地構内遺跡 1 次調査において弥生時代前期前葉～中葉の小区画水田跡が確認されている（愛媛大学埋蔵文化財調査室 2022）。

#### 4 農耕空間における様相

微高地が集落域、隣接した縁辺部や谷部が農耕空間として利用されていたと同時に、農耕空間内でも畝立の畝跡や土壌耕起を行った畝跡など多様なあり方を確認できる。

##### 【参考文献】

- 宇田津徹朗・外山秀一・田崎博之 2010「文京遺跡における縄文時代後期の稲作農耕空間の探求」『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報—2008年度—』
- 愛媛県埋蔵文化財センター2018『旗屋遺跡Ⅱ、上三谷篠田・鶴吉遺跡』
- 愛媛大学埋蔵文化財調査室 2017『文京遺跡Ⅷ—文京遺跡 60 次調査—』
- 愛媛大学埋蔵文化財調査室 2022『愛媛大学御幸団地構内遺跡 1 次調査』
- 田崎博之・外山秀一・宇田津徹朗・松田順一郎・三吉秀充 2013「縄文時代後期～晩期における稲作農耕空間の探求—松山市文京遺跡 44 次調査の試み—」『一般社団法人日本考古学協会第 79 回総会研究発表要旨』
- 田崎博之 2019「北部九州～瀬戸内沿岸における縄文時代後期～弥生時代前期の堆積環境と遺跡の展開」『一般社団法人日本考古学協会 2019 年度岡山大会研究発表資料集』
- 外山秀一 2013「文京遺跡における縄文時代後晩期の微地形復原」『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報—2011 年度—』
- 平井幸弘 1989「石手川扇状地城北地区における沖積低地の地形発達と考古遺跡の立地環境」『愛媛大学教育学部紀要Ⅲ部自然科学』 9
- 宮本一夫 1990「文京遺跡の地形復元」『文京遺跡第 8・9・11 次調査』愛媛大学考古学研究室・愛媛大学埋蔵文化財調査室
- 三吉秀充 2012「松山平野出土の植物遺存体に関する基礎的研究」『愛媛大学法文学部論集 人文学科編』第 32 号
- 三吉秀充 2018「縄文時代・弥生時代前期の農耕地の分析視点」『日本考古学協会2018年度静岡大会研究発表資料集 境界の考古学』
- 三吉秀充 2021「愛媛県域における縄文時代早期～晩期の遺跡立地環境—文京遺跡を中心として—」『第31回中四国縄文研究会岡山大会資料』
- 三吉秀充 2024「02202（城北団地）基幹・環境整備（排水設備改修）工事に伴う発掘調査（文京遺跡 75 次調査）」2024『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報—2022 年度—』

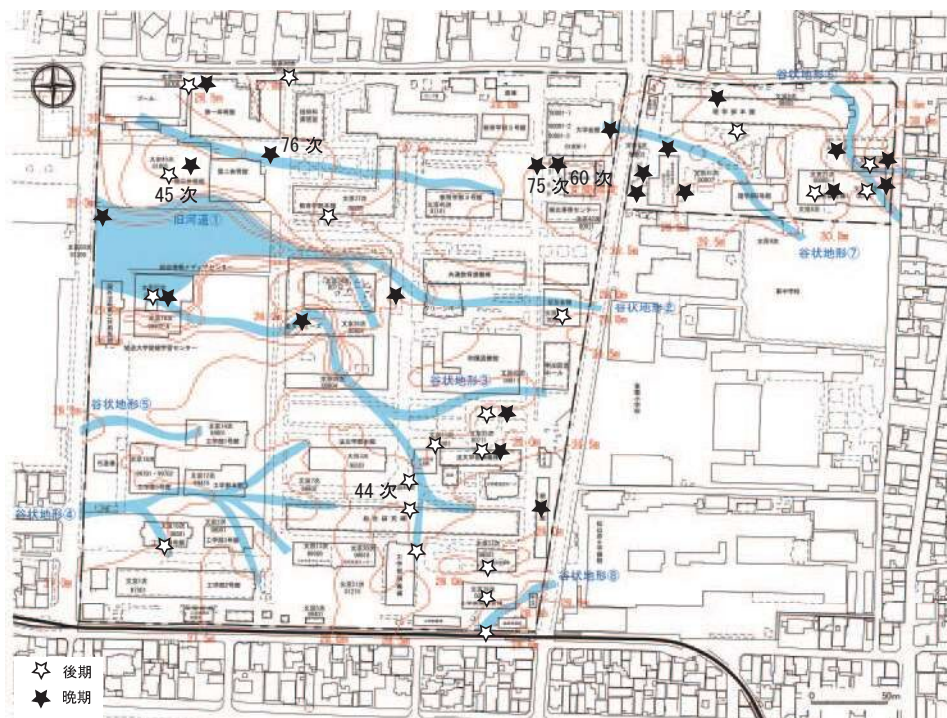


図1 文京遺跡における縄文時代後晩期旧地形の復原と遺構・遺物の分布（外山 2013 を一部改変）

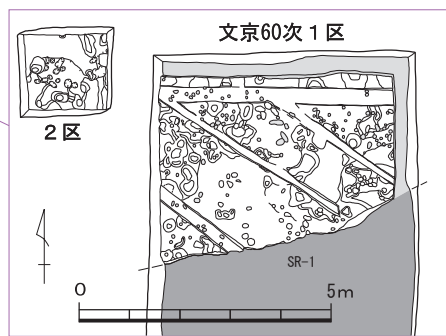
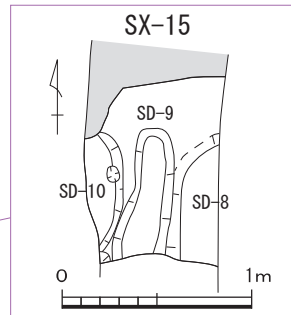
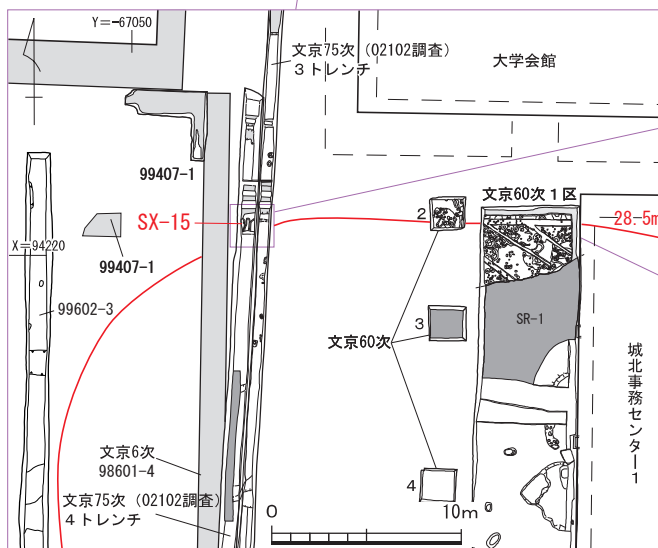
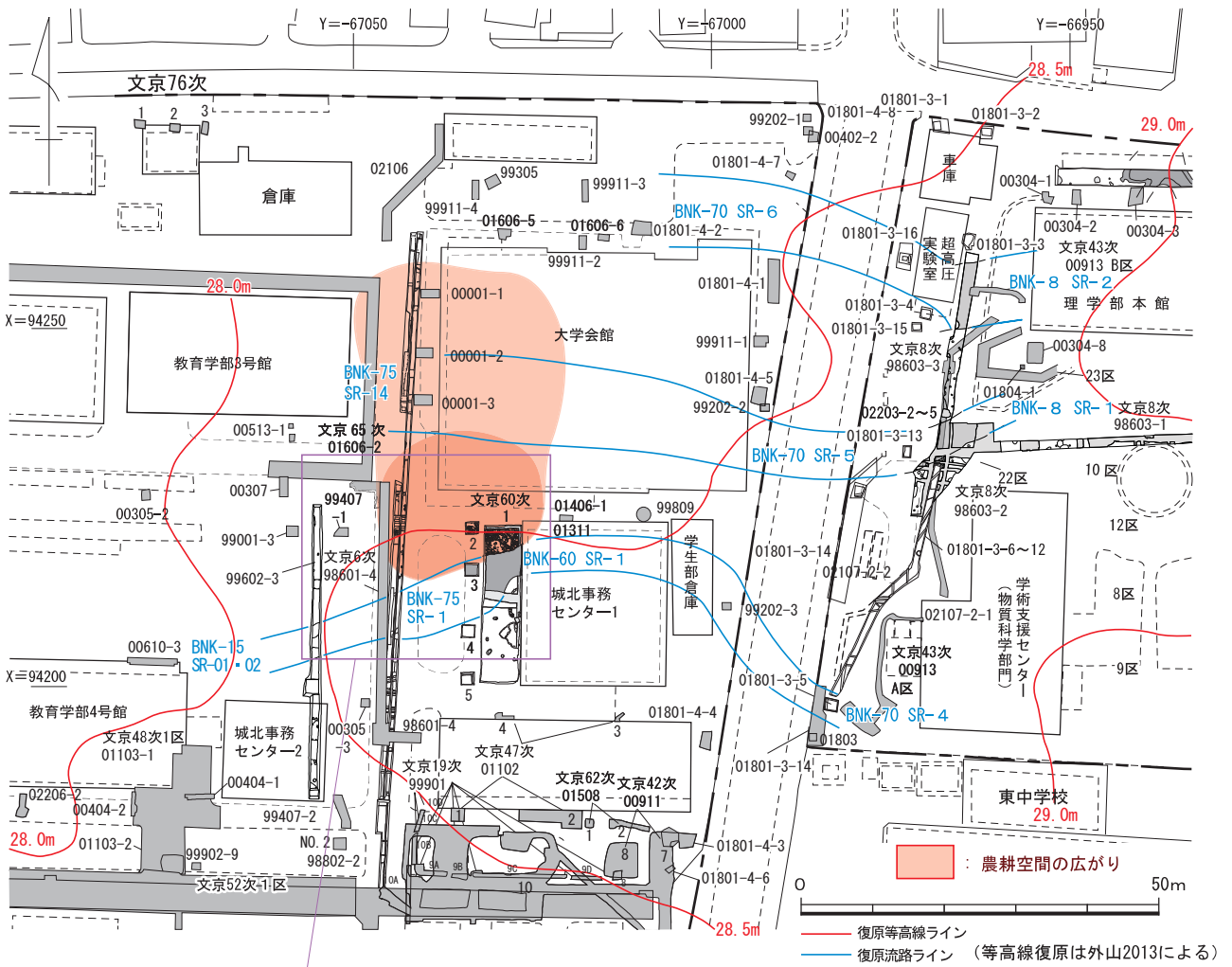


図2 文京75次 (02202調査) と周辺の流路 (縮尺1/1,000) と  
 刻目凸帯文土器期における農耕空間の広がり (縮尺1/400・1/150・1/40)

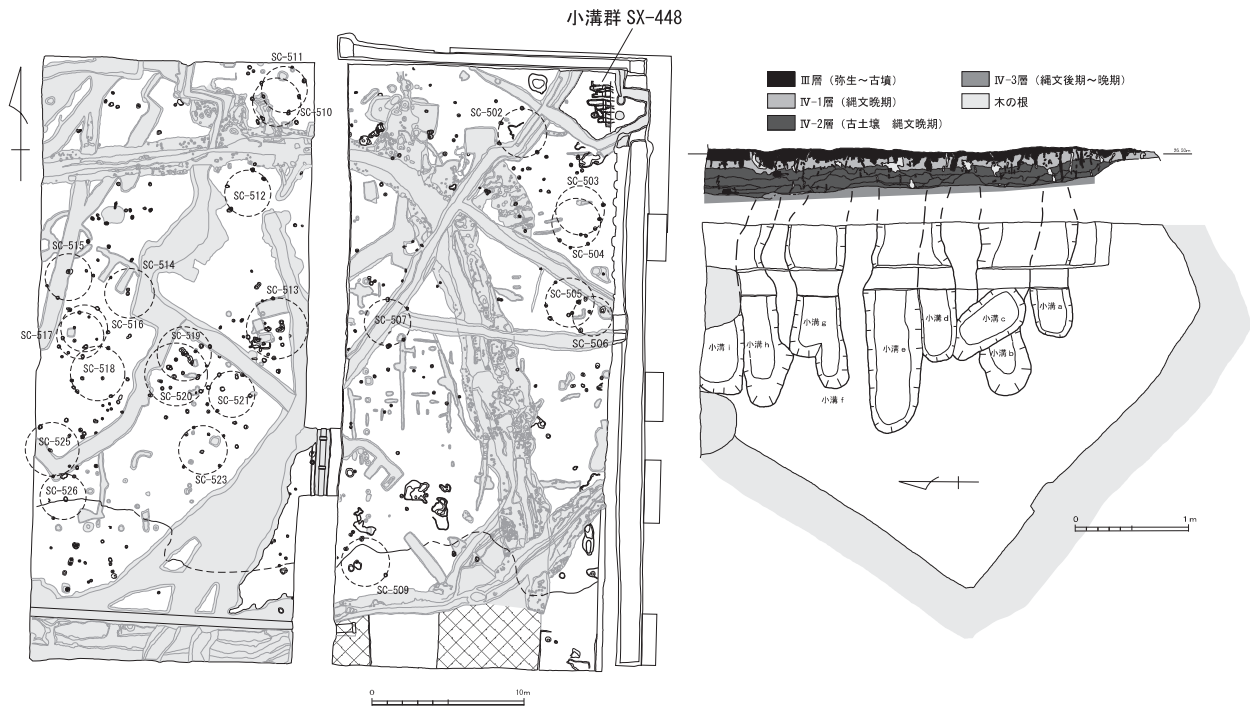


図3 文京遺跡 45 次調査における刻目凸帯文土器期の遺構平面図と小溝群 (三吉2018)

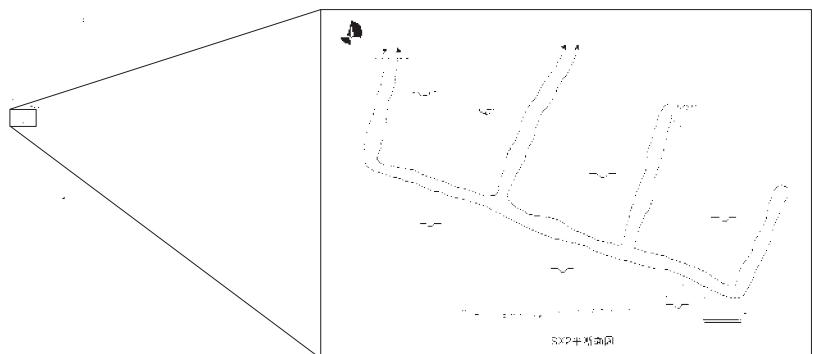


図4 上三谷篠田・鶴吉遺跡における小溝群 (愛媛県埋蔵文化財センター2018)

表1 松山平野における弥生時代前期の炭化種実 (三吉2018)

遺跡名	回数	遺構	時期	イネ (点)	ササゲ属 (点)	備考
鶴が峠遺跡		G区SK-2	弥生時代前期末		76	※アズキ近似種
鶴が峠遺跡		G区SK-4	弥生時代中期初頭～前半			ドングリ4
鶴が峠遺跡		G区SK-5	弥生時代前期末	229	4	※アズキ近似種
鶴が峠遺跡		G区SK-7	弥生時代前期末	3		
鶴が峠遺跡		G区SK-8	弥生時代前期末	31		ドングリ類2
鶴が峠遺跡		G区SK-9	弥生時代中期初頭～前半	1		ドングリ類2, イチイガシ? 1
上刃屋遺跡	4次	1区SK4	弥生時代前期末～中期初頭	12	4683	コナラ属のドングリ
上刃屋遺跡	4次	1区SK4区SX1	弥生時代前期末～中期初頭	2	3	
上刃屋遺跡	4次	2区SK5	弥生時代前期末～中期初頭	3		
上刃屋遺跡	4次	2区SK6	弥生時代前期末～中期初頭		26	
上刃屋遺跡	4次	1区包含層	弥生時代前期末～中期初頭		1	